

公開概要書

受付日	令和 7 年 3 月 14 日	回答日	令和 7 年 3 月 21 日	担当課	人権センター
意見等の内容	数多くの職場で、男性の茶髪（染髪）はタブーであり、女性の茶髪は寛容なダブスタが“当たり前”になっている。 ●【おしゃれと身だしなみ】 (1)『おしゃれは“自分視点”、身だしなみは“他者視点”』 近年はおしゃれが多様化しているが、他者も好印象とは限らない。タトゥーや腰パンなどは嫌悪されやすいので身だしなみが必要である。 茶髪は身体改造を伴う目立つおしゃれで、以前「社会人の身だしなみ」として男女ともタブーが“当たり前”であった。今日でもネガティブな印象を受ける人はい る。 (2)『おしゃれは“権利”、身だしなみは“責任”』 おしゃれは個人の自由であるが、不快に感じる人がいる限り「身だしなみとして」不適切だと思う。 ●【ジェンダーとバイアス】 「ジェンダー平等の実現」は社会の課題であり、国連の SDGs（持続可能な開発目標）にも掲げている。 近年では、アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）が注目されているが、「おしゃれ＝女性」のイメージはないか。 「男性は仕事、女性は家事」のような、「女性はおしゃれ、男性は身だしなみ」のジェンダーバイアス（GB）により、おしゃれと身だしなみのダブスタが広く“当たり前”になっていると思う。 ●【（要望）おしゃれと男女共同参画】 おしゃれと身だしなみの GG や GB なんて考えたこともないという人は多いと思いますが、ぜひ“当たり前”を考えてほしい。 とくに大事なのが「学校教育の現場」である。ここでも茶髪の女性教職員はいて、茶髪の男性教職員はいないと思う。もちろん教育現場だけではなく、女性が活躍する社会において、多くの職場で、《おしゃれと男女共同参画》について話し合っていたきたいと思う。				
回答の内容	現在、益田市におきましては、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に、社会のあらゆる分野で発揮できる男女共同参画社会を目指した男女共同参画社会基本法の趣旨を踏まえ、SDGsの視点を取り入れた、第4次益田市男女共同参画計画に基づき、様々な施策を展開しているところです。 この計画では、ご指摘されています「職場でのおしゃれ・身だしなみ」について、性別を理由とした固定的な役割分担意識を解消し、性別に関わりなく個人として尊				

	重ることのできる男女共同参画社会の実現に向けた意識づくりを家庭、学校、地域、職場で相互に働きかけながら進めていくこととしております。 また、市内の企業等が構成員となっています「石西地域人権を考える企業等連絡協議会」では、市と協働で職場内のハラスメントやアイコンシャス・バイアス（無意識の偏見）等に関する研修を行い、人権意識の高揚に努めているところです。 今後、いただいたご意見を参考にしながら、ジェンダー平等をはじめ、職場での男女共同参画の推進に向けて、引き続き意識啓発に取り組んでまいりたいと考えております。
--	--